

WEEKLY SIGNAL

2019年5月24日(金) 1475号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	5/27(月)	5/28(火)	5/29(水)	5/30(木)	5/31(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 700	トシ	トシ	△1,000	△900
財政他	△4,600	+ 11,000	△4,000	+ 1,000	△1,100
資金需給	△3,900	+ 11,000	△4,000	トシ	△2,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	地方貸実行	国債発行(40年)		交付税特会発行・償還
オペ期日	共通担保 △3,000 CP等買入 △200 補充供給 + 100				
オペスタート	共通担保 + 2,700 社債等買入 + 1,000 ETF買入 + 400				
(日本)	黒田日銀総裁、講演(T20サミット) 日米首脳会談、共同記者会見	企業向けサービス価格指数(4月)	黒田日銀総裁、挨拶(日本銀行金融 研究所主催2019年国際コンファレンス)	櫻井日銀審議委員、挨拶・記者会見 (静岡県金融経済懇談会)	完全失業率(4月) 有効求人倍率(4月) CPI(東京都都区部、5月) 鉱工業生産指数(4月) 住宅着工件数(4月)
(海外)	米 休場	欧 EU首脳会議(ブリュッセル) 米 FHFA住宅価格指数(3月) 米 消費者信頼感指数(5月)		米 クラリダFRB副議長、講演 米 GDP(1Q、改定値) 米 卸売在庫(4月) 米 新規失業保険申請件数 (25日終了週) 米 中古住宅販売成約指数(4月)	米 シガン大学消費者 マインド指数(5月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.045 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、396兆7,500億円から始まった。週を通して概ね横ばい圏で推移し、398兆円で越えた。無担保コールON物は大手行を中心に調達ニーズが強まったことから、堅調な地合で推移した。同加重平均金利は週初20日の△0.068%から上昇基調を辿り、週末24日には△0.043%となった。ターム物は、1~2W物で△0.055%~△0.035%の出合が見られた。5月21日に実施された国庫短期証券買入オペのオファー額は5,000億円と、前回オファー分(5月14日、オファー額7,500億円、応札倍率2.63倍)から減額となった。応札倍率は3.02倍となり、前回対比で上昇した。来週の主な予定は黒田日銀総裁の講演(27日)・挨拶(29日)、海外ではクラリダFRB副議長の講演(30日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約9,300億円で、週間償還額(約4,900億円)に対し発行超となった。発行市場は、連日、その他金融・鉄鋼・不動産業態等からの大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。市場残高は23日時点で20兆円弱となり、先週末(19兆6,739億円)から増加した。発行レートは、投資家・ディーラーの旺盛な運用ニーズに変わりなく、引き続き0%からマイナスでの出合いであった。来週の償還総額(5/27~5/31)は、月末日の大量償還(約8,300億円)を含み1兆1,700億円程度となっている。発行市場は、月末スタート絡みで幅広い企業からの発行が見込まれ、活況が予想される。発行レートは、投資家・ディーラーの運用ニーズが引き続き強く、0%からマイナスレートでの出合いとなろう。CP等買入オペが28日に2,000億円程度オファーされる予定である。

<TDB>

今週の国庫短期証券市場は、先週と横ばいの地合。24日入札の3M834回債は、最高落札レート△0.1423%(前回債△0.1463%)、平均落札レート△0.1499%(同△0.1527%)と前回債から小幅の上昇に留まった。セカンダリー市場では3M物は△0.15%程度、1Y物が△0.16%程度の出合となった。来週は31日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.085%~△0.095%で始まり、週央にかけて同水準で推移した。短国3Mの発行日となる27日受け渡しは、後場△0.075%~△0.08%まで小幅上昇した。SC取引では10年352回債、353回債のbidが多かった。352回債は、国債買入オペがオファーされた22日受け渡しで一時△0.10%台半ばの出合い。353回債は、週前半△0.10%台前半で多く取引された。その他2年398・399・400回債、5年137・138・139回債、10年340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・354回債、20年164・165・166・167・168回債、30年59・60・61・62回債、40年9・10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。